ラグビーのアイデンティティ　・・・Attack

まえがき

「A GUIDE FOR PLAYERS」1974 年 RUGBY FOOTBALL UNION（略 R.F.U.）再販に次のように明言されています。

“the game for fun. We play to win but not at all costs.”そして“Attack must be our consideration.”と教えています。ラグビーは楽しむためにするものであり、ゲームに勝つことは楽しいことですが、勝ち方が問題であり、そこにラグビー独特のよさがあるのです。ラグビーをやり始めた早い時期に認知して道を誤らないようにしなければならないと説いています。ラグビーの古歌に‘on the ball’というのがあります。「先頭の者がボールを捕り FW から BK へ皆でボールをつなぎ最後にボールを持った者がトライするのだ」という意味の歌詞でチームのためにチームの象徴である旗を掲げて‘for the flag’と叫び上げています。ラグビーの誕生から長い歴史の中で勝利の要件として考えられてきた power と flair は全員の協力があって始めて実を結ぶもので、power は単に筋肉による身体的な力だけでなく sportsmanship 特に gentlemanship に裏付けられた精神的なものが重要視され単に表面的な強大さや激しさを求めるものではありません。

flair はヒューマニズムあふれる自由で個人尊重の発想とよい結果を生みだす地道な努力過程が重要視されました。flair については南アの Danie Craven の足跡が大きいです。スクラムの組み方を 3-2-3 の押し型から固いまとまりと展開を考え、3-4-1 型を広めました。BK のスクラムハーフがボールを持って走ることが展開継続のために当然の普通のプレーとしました。英本国もそれらに目覚め普及しました。

温故知新。進化し続けているラグビーに変わらないものと変えてはならないものがあるのです。

「A GUIDE FOR PLAYERS」の ATTITUDES TO THE GAME を読んで先ずラグビーのアイデンティティについての考察を深めて下さい。以下の言葉は「A GUIDE FOR PLAYERS」の結びの言葉です。

“ENJOY YOUR RUBGY”

第 1 章　ATTITUDES TO THE GAME

この本はラグビーを始めようとする人や新しいアイデアを探しているプレーヤーのために書かれていますが、個人のラグビーへの姿勢・心構えに影響を与える取り組みに関する単純な事柄のいくつかを覚えていないことを言い訳にされるかもしれません。

ラグビーに関係し唯一報酬を得ているのはラグビー協会の書記とトゥイッケナムに居て彼の元で働く秘書とグラウンド整備員だけです。全てのクラブの役員、地区のレフリー・タッチジャッジ・コーチやクラブの世話をしている人達、プレーヤーとこの本の筆者でさえラグビーからお金を儲けていません。実際にお金はラグビーを支援するためにほとんど使われているのです。にもかかわらず非常に多くの観客が国際ゲームの観戦に多くの入場料を払ってくれています。そのお金は個人には支払われないでもっと多くの人々が自分たちの町でプレーすることが出来るようにそれぞれの地域のラグビー発展のために使われるのです。ゲームに出る最高のプレーヤーが木曜日に用具を詰めて準備し、土曜日に各地でプレーするという最大の観客を引きつける世界のアマチア競技です。

年齢・男女問わず全てのこれらの人々は何故ラグビーに時間を費やすのでしょう。人それぞれ答えがあるのでしょうが楽しみのためにやっているという点では大体一致しているのです。何故なら彼らはラグビーを楽しみ人々はラグビーに関わることによって出会うのです。

これは我々が受け継いできた精神です。この 100 年間に築かれた財産です。ゲームに関わる一人一人が維持につとめ、フィールドの内外の行動によってより豊かなものにしなければならない相続財産です。

我々の中には「数年前のことは言う必要がないかもしれない」、「全てこれでよいのだ」、「なんとかうまくいっている、わざわざ見つけ出すこともない」という精神や思い込みがあります。我々自身が責任を感じることは重要なことです。激しい身体接触を伴うスポーツは簡単に手の届かないところにいってしまうものですから、以上のことをまとめましょう。

あなたは楽しみのためにゲームをするのです。勝つことにより楽しみがより大きくなることは確かです。しかし勝つために全てのコストを払うという余裕があるでしょうか。そのような姿勢は我々が無論のこととして望む基本理念を破壊することになるのです。レフリーに図々しく口を出さない。レフリーは国際ゲームでさえも楽しみのためにレフリングに努めているのです。我々が勝つためにプレーするのは勿論です。しかしそれが全てではないのです。我々はルールを守って最大の得点をして勝つためにプレーする、その事は攻撃について先ず最初に熟慮しなければならないということを意味しています。各個人・レフリーを含めてフィールド上での全ての楽しみを増加する責任があるということで、このことは観客にも言えることです。個人はコンディションによってプレーを適合することが出来ます。これには智性と技術と身体作りが要求されます。我々が激励している姿勢はいさぎよい敗者としての態度を愛する風刺画に描かれた英国のスポーツマンと同意義であると感じられるかもしれません。しかしこれは我々の目的から遠く離れています。我々はむしろ真のスポーツマンの基本理念を保持している有能な特別な才能を持った人を励ますのです。この姿勢はスポーツへ奉仕することを考え身体作りの鍛練とチームの技術についての現代的国際的方法の智識を要求します。

素人の人達を激励する事や、智識から利益を得るコーチの技術や技法を進歩させることは、プロフェッショナリズムではありません。我々は秀高なポリシーを追求することに励まねばなりません。ポリシーとは一人一人が努力し、それぞれ最高に望んでいたものを超え達成して終るもので、詩の一節のように喜びいっぱいの現実のものとなるべきものです。プレーヤーやチームはその方向性の後にある精神的なものを見失ってはなりません。（最低な基準としてではなく）最高の基準として勝つことを目指すことは、はかない志の無い自己表現という罰となり、決定的な沈滞という結果になります。成功への近道はありません。例えば、息詰まるような接戦に中で、15 人のプレーヤーが一体となり流暢に流れるゲームをしようとしているというようなことは大きな声で言わないのです。不幸ながらあなたは外見上リラックスして自由に流れるようなゲームをするよう努力しなければなりません。あなたが学校で指導されラグビーの公式の教育として定着している古いアイデアは長い間に死んでしまっています。我々は我々の時代に学び直しコーチをしようと思っていました。かつてこの姿勢は受け入れられていました。というのはラグビーは複雑なチームゲームだからです。各プレーヤーは残り 14 人に責任を持ち、14 人は彼に責任を持っているのです。個人の練習は限定的なものでクラブ練習の方は基本的にはチーム練習となるのです。チーム練習に参加しないプレーヤーはチームワークは一人一人お互いに責任のあることですので、チーム練習に参加しないプレーヤーは、重んじられるメンバーでいることはできません。さらにリードするために誰かーそれはコーチ・キャプテン、時にはあなたですがー前もって準備されたプランがなければ、15 人がただ集まるだけではよくありません。15 人が 1 時間の練習過程はつめこまねばならないほどつまらないものはありません。さもなくば 15 人は次の週は参加しないでしょう。その上集まった 15 人は新しいアイデアや変化

を受け入れる精神的な心構えを持たねばなりません。これらのプレーヤーが新しい方法を採用し（新しいことに全ての時間を費やすか、新しい時間を設けるかして 1920 年から復活した少量の問題に実際に取り組み）そして柔軟に試してみないならばこの本に書かれている精神は効果が無いでしょう。

クラブや学校では多くのことがリーダーシップに依ることが多いものです。それは人間の活動の領域であるからですがチームは責任を負っている一人一人の個人から成り立っているのですからチームの多くは（レフリーに感謝していたあなたに）よるのです。あなたがラグビーを愛するならば、あなたがこの素晴らしい競技に誇りを持っているのと同じように、プレーヤー・関係者・観客がより一層楽しいものにするため何かをする準備がなされるでしょう。もしあなたの気持ちがそうなっていないなら、ゲームの中に他の行動を始めよるように望みましょう。そうすればこの本が投げかける最もよいものになるでしょう。そしてあなたの余暇を過ごす面白いものを見つけることになるでしょう。今あなたが読んでいる途中ならばこの本の残りをよんで下さい。練習の中に取り入れて下さい。そうしたらそれをよりよく書き直すため準備となるでしょう。

編者後記

1945 年に第二次世界大戦が終結し英本国の社会の復興が軌道に乗ってくる中にあってラグビー界も息を吹き戻しラグビーの母国として盟主の名に恥じない足跡を求める気運が高まりました。一方戦争の痛手を最も受けることのなかった南アフリカでは戦中もほとんど変わりなく競技がなされ戦後は順調に発展し英本国をしのぐような力を備えるようになりました。RFU は創立 100 周年（1970 年）を前にして名誉にかけて復活を誓い、1960 年代に入って色々な方策に着手しました。協会組織を見直し、指導内容や方法の検討等が強力に進められました。「A GUIDE FOR COACHES」をはじめいくつかの指導書が充実出版され Coaching Scheme も作成されました。

「A GUIDE FOR PLAYERS」に初版は 1968 年です。巻頭の Acknowledgements を見ると Don Rutherford の名があります。彼はアマチュアリズム宣言中のプロ第 1 号です。巻頭の次の言葉を読んで驚きました。

「It is in games that many men discover their paradise. Robert Lynd」

paradise と言う言葉に彼らの希望と意気込みを感じました。RFU 会長の Foreword に次のように書かれています。

「This book was first published in 1968, and much has happened in the rugby world since then.」

RFU の苦悩と努力がにじみ出ています。次の GLOSSARY OF TERMS は単なる単語集でなく RFU の方針を示す将来ラグビーのキーファクター語集と言っても過言ではありません。ATTITUDES TO THE GAME ラグビーへの姿勢・心構えの章には RFU の夢とポリシーがいっぱいで温故知新英国ラグビー再建の意気込みが強く感じられます。ラグビー界の相続財産と言う言葉でまとめられています。

Attack については次の原文を参照してください。

2011.07.09
西川　義行

Published by the

RUGBY FOOTBALL UNION

A GUIDE FOR PLAYER

A GUIDE FOR PLAYERS

Published by

the

Rugby Football Union © 1974

Printed in England by Walker & Co. (Printers) Ltd., Twickenham, Middlesex

CONTENTS

Page

Foreword

President of the R.F.U. V

Chapter Ⅰ

Attitudes to the Game. 1

Chapter Ⅱ

Team Skills. 5

Chapter Ⅲ

Individual Skills. 20

Chapter Ⅳ

Unit Skills (a) Forwards. 54

(b) Backs. 75

Chapter Ⅴ

Are you fit enough to play this Game? 87

Chapter Ⅵ

The Role of a Captain. 102

It is in games that many men discover
their paradise.

Robert Lynd

ACKNOWLEDGEMENTS

To the original writers:

I. D.S. Beer
J. W. Collard
D. Rutherford
L. Tatham.

To the R.F.U.'s Technical Administrator:

Don Rutherford

for having revised this edition which includes a new chapter on Running Fitness by Bernard Wright, Director of the Scottish School of Physical Education.

Front cover photographs by Colin Elsey of Colorsport.

Inside photographs by Colin Elsey of Colorsport
Central Press Photos
The Sport and General Press Agency
Sunday Mirror
The Sunday Times

Artwork by Stuart Emery.

Foreword

This book was first published in 1968, and much has happened in the rugby world since then.

The game is now in its one hundred and fifty-first year, and as befitting the originators of the game, the British Isles has had two marvellously successful Tours to New Zealand in 1971, and South Africa this Summer.

Rugby is on the crest of a wave, and players of all ages want to know more and more about how they can improve their game, and thus increase their enjoyment. I am confident that this book will help them in attaining these two very desirable goals.

President, 1974-75

GLOSSARY OF TERMS

Unit Skills. Skills performed in co-operation with others where the whole team is not involved, e.g., scrum, line-out; flank forwards, No. 8 and half backs; threequarter backs and full back.

Team Skills. Practising the co-ordination of units and involvement of all fifteen players.

Quality Possession. Possession by correctly timed feeding of the ball so that positive and constructive play can be achieved from scrum, line-out, ruck, maul, or broken-play.

Gain Line. The imaginary line drawn a cross the field through a scrum, line-out, ruck, maul, penalty and kick-offs, etc.

Tackle Line. The mid-line between the backs which pivots in relation to the gain line according to the position of the teams, i.e.,whether the back divisions are lying shallow or deep.

Effective Area. A part of the field of play, beyond the gain line, into which the ball is played in such a way as possession can be regained/retained and further attacks developed.

Scanning. Looking, critically and constructively, at the development around you.

Switching. A term used as a logical follow-on from scanning in that having assessed the situation you change direction of play to avoid the development of dead or negative situations and to cause confusion and disorganisation in the defending side.

Scrum. Refers always to what has been so often called set-scrum.

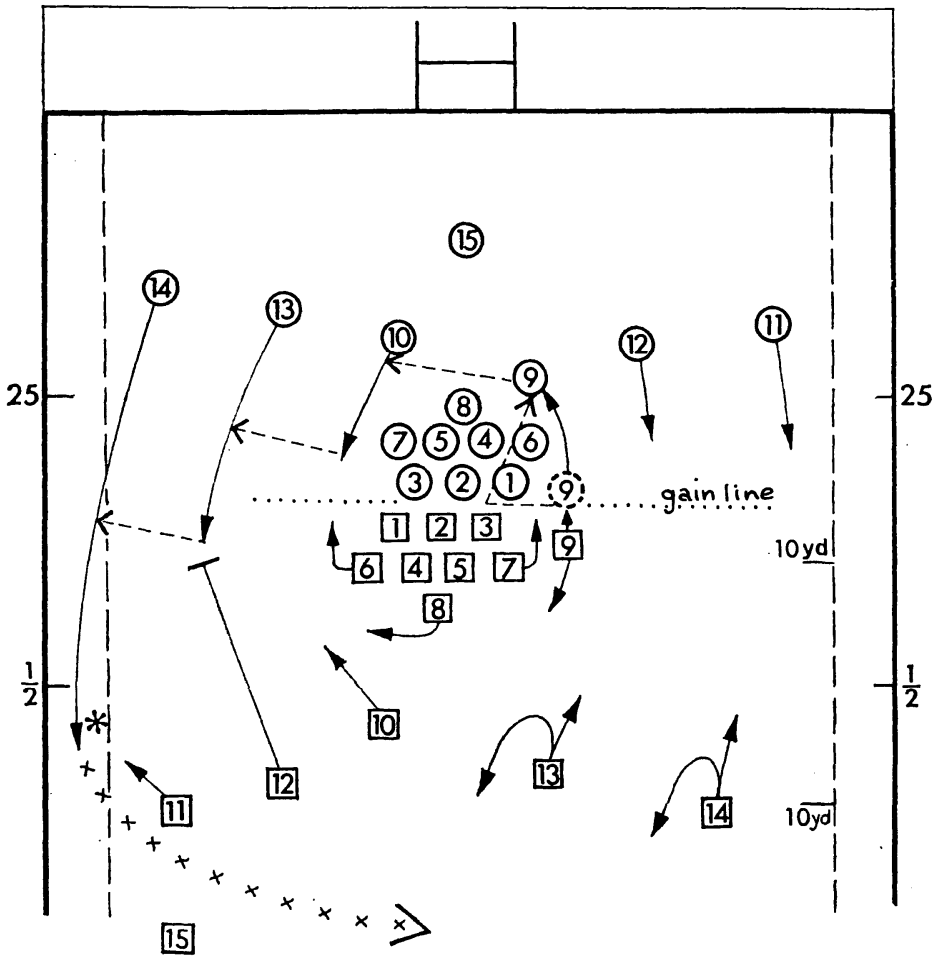
Ruck. Refers to what has been so often known as "loose-scrum". Rucks must be forceful and in no way loose.

Maul. A situation where players from both sides are gathered round the ball which is not on the ground.

Wedge. An interlocking, forward formation, usually in a line-out, to ensure quality possession.

KEY DRAWING

An Example Play Situation—a Cross-kick by the Wing to show Player Numbering and Symbols



KEY to all diagrams

Player's run — Pass or ball — Kick

Point of tackle — * Moment of decision

or In possession–attackers–always down page

or Lost possession–defenders–always up page

Gain line

Good Ball — A scrum, ruck or maul situation

ATTITUDES TO THE GAME

This book is written for players new to the game, or players looking for new ideas, so we may be excused if we remind ourselves of some of the simple facts connected with the administration of rugby football which must affect each individual's own attitude.

The *only* paid men connected with the game are the Secretary of the Rugby Football Union, his secretarial staff at Twickenham and groundsmen. This means that all your Club officials, the referees all over the country, the touch judges, the coaches, the people who make your Club teas, all the players and even the authors of this book, make no money out of rugby-indeed, most give money to assist the game. Despite this, huge crowds watch international matches and pay a lot of money to the gate. The money never goes to individuals, but is used for the development of the game up and down the country so that more and more people can play the game in their own home town. The greatest players in the game pack their bags on a Thursday to play for their country on a Saturday; the biggest crowd-pulling amateur game in the world. Why do all these people, of all ages, of both sexes, spend hours of their time for rugby football? Each may have his answer, but most would agree that they do it for fun, because they enjoy the game and the people they meet connected with it.

This is the spirit which we have inherited, a heritage built up over the last hundred years, and it is a heritage which each one of us connected with the game must preserve and enrich by our own actions on and off the field. Some years ago this may not have needed saying, but with the philosophy of "I'm all right, Jack", or of "Cheating is all right provided you are not found out", it is important to remind ourselves of our responsibilities, as a rough body contact sport can easily get out of hand.

Let us assume then, that you play the game for fun; it is obviously more fun, certainly more enjoyable, to win, but can we afford to play to win at all costs? Such an attitude can easily destroy some of the principles we hope to take for granted-we do not cheek the referee, after all he is only refereeing for fun too; even in an international! We play to win, of course, but not at all costs; we play to win scoring the maximum number of points possible within the laws, which means that **ATTACK** must be our prime consideration. This immediately places upon each individual-referee included-a responsibility which can do nothing but increase the enjoyment for all on the field, and all who watch. It also assumes that individuals are capable of adapting their play according to conditions, and this requires intelligence, skill and fitness.

You may feel that the attitude we are encouraging is synonymous with the caricatured British sportsman who loves losing well, but this would be far from our aim. Rather we would encourage an efficient and specialist attitude whilst retaining the basic principles of the true sportsman. This attitude allows a man to be dedicated to his sport and requires of him a knowledge of modern scientific methods of fitness training and team skills. It is not professionalism to take an amateur game seriously! Nor is it professionalism to encourage an amateur to develop the skills and techniques of a coach so that other players may benefit from his knowledge.

We should strive to pursue a policy of excellence. This policy is embodied in a delightful piece of verse which ends "a man's reach should exceed his grasp or what's a heaven for?"

No player or team should ever lose sight of the philosophy behind these lines. The penalty for a low level of personal attainment, and for seeing winning as your highest standard (instead of your lowest standard), so often results in dreary, unambitious performances and to ultimately the stagnation of the game.

Of course, there is no short cut to success-you do not announce for example, that you are going to play a free flowing game involving 15 players in some breath-taking spectacular, and "hey presto!" it happens. Unfortunately you have to work hard at your game to play it in an apparently relaxed and free flowing way.

The old idea that you were coached in school, and then your formal education in rugby football ceased, is long dead-we go on learning and being coached throughout our playing days.

Once this attitude is accepted, and because rugby football is a complex team game, it becomes obvious that each player has a responsibility to the other fourteen and they to him. This means that individual practicing is of limited use, and that the Club practice evening becomes essentially a team practice evening. Players who do not turn up cannot be considered members of that team as we each are responsible for each other. Moreover, it is no good arriving as fifteen men to practise as a team unless there is a plan previously prepared by someone prepared to take a lead; the coach, the captain, or who you will. A practice session for fifteen players for an hour is not something to drift into, or else fifteen will not turn up the following week. Moreover, once the fifteen are there they must be of the mental attitude to accept new ideas and change. If these players will not experiment, adopt new methods (whether they be new for all time or new, having been resurrected from 1920, matters not one jot) and be flexible in their approach, then the spirit in which this book is written will be lost upon you.

Much will depend in your Club or School on leadership, as it does in any sphere of human activity, but a team consists of individuals who have individual responsibility and so much will depend upon you (have you ever thanked the referee?). If you love rugby football you will be prepared to do anything to make it more fun for players, administrators and spectators alike so that you may be justly proud of this very fine game; if you are not prepared to join in the spirit, but wish to introduce other motives into the game, it would be best to throw this little book away, and find interests for your spare time elsewhere. To those of you still reading, enjoy the rest of this book, put some of it into practice and then be prepared to re-write it better....